

エコアクション21

環境経営レポート



活動報告期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日



専門学校
静岡工科自動車大学校

作成日

令和 7 年 6 月 18 日

目 次



必須項目である環境活動の取り組み計画と評価

・ 静岡自動車学園環境経営方針	2
・ 事業所の概要	3
・ 環境経営システム組織図	4
・ 環境経営システム（事務部門、教育部門詳細）	4
・ 環境経営システム（役割）	5
・ 主な環境負荷の実績	6
・ 環境経営目標及びその実績	7
・ 必須項目である環境経営計画の取り組み結果とその評価	8
・ 自動車整備専門学校としての環境活動の取り組み計画と評価	9
・ 令和3年度シラバスに基づく環境教育	9
・ 施設・設備に関する環境教育	10
・ その他の環境活動の取り組み実績	11
・ 問題点の是正処置及び予防処置の結果	12
・ 環境関連法規等の厳守状況	14
・ 外部から苦情等の受付状況	15
・ 環境上の緊急事態の訓練結果	15
・ 校長による評価と見直し	16



学校法人

静岡自動車学園

環境経営方針



(環境理念)

学校法人静岡自動車学園は、環境にやさしい交通社会の実現を目指す交通教育機関として、地球の環境保全や環境負荷の低減など環境に配慮した活動を目指す。

(環境方針)

1. 教育活動を通じて環境問題を意識した行動のできる学生を育成する
2. 自動車運転教習を通じてエコドライブを意識したドライバーを育成する
3. 良好な環境を保全するため環境関連法規を遵守する
4. 二酸化炭素排出量削減のためエネルギー使用量の削減に努める
5. 水資源を有効利用するため節水に取り組む
6. 資源の有効利用(リサイクル)により廃棄物削減を目指す
7. 環境に配慮した物品等の購入・使用を心掛ける(グリーン購入)
8. 生活環境の保全のため化学物質使用量の削減を目指す
9. 環境経営の継続的改善を誓約する

制定：令和元年 6 月 30 日



学校法人

静岡自動車学園

理事長 平井 一史



事業所の概要

令和7年4月1日現在

1. 事業所名及び校長氏名

専門学校 静岡工科自動車大学校

校長 古澤 浩一

2. 所在地

〒420-8507

静岡県静岡市葵区宮前町52-1

3. 静岡工科E A 2 1リーダー、事務担当者氏名及び連絡先

静岡工科E A 2 1リーダー・静岡工科事務局(事務担当者)

総務課長 小池 京司

TEL : 054-263-4666 (代)

FAX : 054-262-7288

E-mail : koike@kohka.ac.jp

4. 事業内容

専門学校(自動車整備士養成課程)

自動車整備業 (認証: 静第24号、指定: 中指第4836号)

5. 事業規模

在学生数 509人(令和7年4月)

従業員数 32人(非常勤講師及びパート除く)

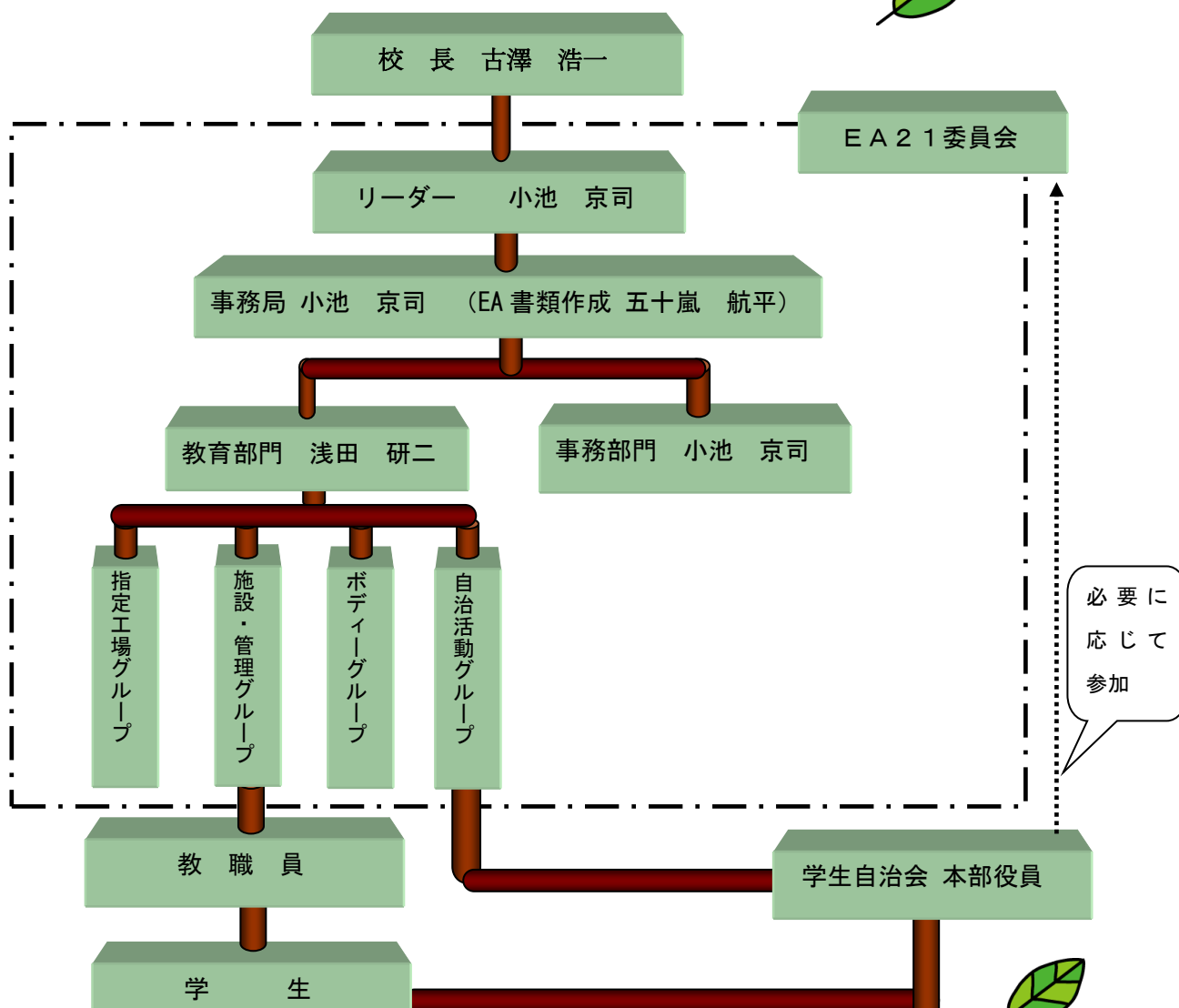
延べ敷地面積 9,520.14 m²

6. 事業年度

活動報告期間: 令和6年4月1日～令和7年3月31日

データ測定期間: 令和6年4月1日～令和7年3月31日

専門学校 静岡工科自動車大学校
環境経営システム組織図



※工科E A 2 1委員会はリーダー、事務局、E A書類作成、教育部門長、事務部門長及び指定工場グループ、施設・管理グループ、3-4年グループ、自治活動グループのリーダーで構成する。

事務部門、教育部門詳細

下表の()がE A 2 1委員

事務部門 (部門長 小池京司)	総務課	小池、坂井、宮崎
	入試・進路課	橋本、瀧、小杉、太田
	奨学金・保険	植田、佐野
教育部門 (部門長 浅田研二)	指定工場グループ (リーダー五十嵐航平)	五十嵐、梅坂、齊藤、渡辺優、古瀬田村
	施設・管理グループ (リーダー梅澤 均)	梅澤、高野、鈴木浩、佐々木、古瀬
	ボディーグループ (リーダー齋藤晃一郎)	齋藤、浅田
	自治活動グループ (リーダー中野 聖也)	中野、廣石、アキオ、宋波、河田
	他 教務課	杉山、山本、渡邊徹、佐藤、原、岡村、渥美、増田、安田、大石、松浦

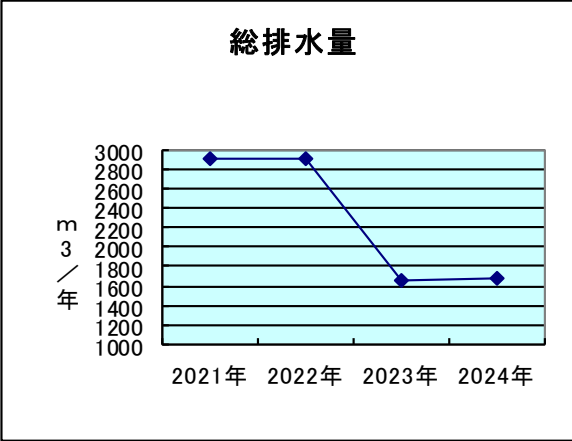
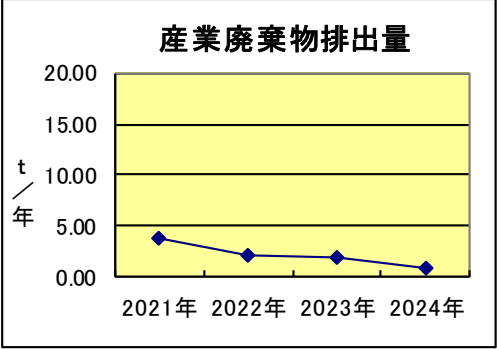
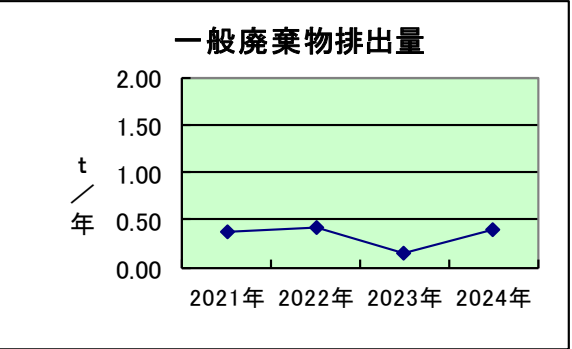
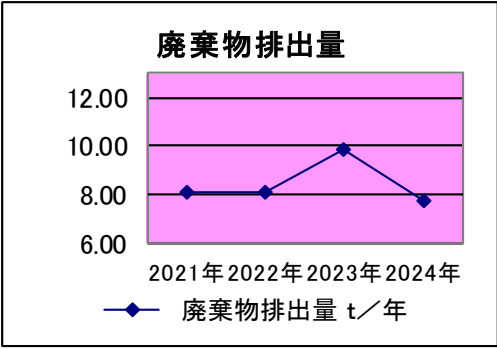
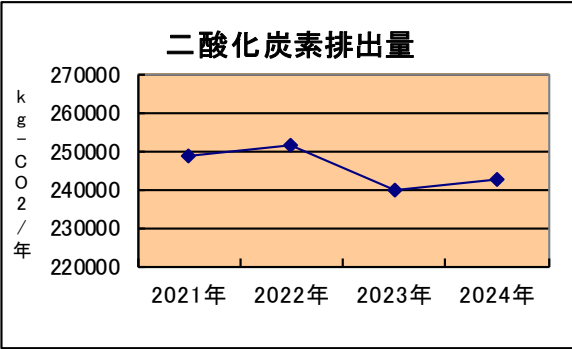


校 長・ 副 校 長	<ul style="list-style-type: none"> ①環境経営システム全般を総括しその最終責任を負う。 ②環境経営システムの実施と管理のために必要な経営資源を割り当てる。 ③工科E A 2 1リーダー及び委員を任命する。 ④環境経営方針に沿って、環境経営目標、環境経営計画及び環境活動レポートを承認する。 ⑤環境経営目標及び環境経営計画の相互間に不整合がある場合には、調査及び是正の指示をする。 ⑥環境経営システムの見直しを行い、システム及び環境活動に関する課題がある場合には調査及び是正の指示をする。 ⑦環境関連法規等で定めがある場合には、必要な者を任命する。
工 科 E A 2 1 委 員 会	<ul style="list-style-type: none"> ①環境経営システム全般が円滑に実施されるよう運営する。 ②環境経営目標及び環境経営計画に対する自己評価を行う。 ③環境経営システムの見直しに参画する。 ④環境経営レポートを作成する。 ⑤全体のシステム進捗状況を共有する。 ⑥学生自治会と協調し環境負荷低減に努める。
リ ー ダ ー	<ul style="list-style-type: none"> ①環境経営システムを運用・管理する。 ②各部門を総括する。 ③環境経営システムの見直しのため及び改善の基礎として、校長に環境経営システムの成果を報告する。 ④問題発生時は是正を指示する。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ①環境経営システムの維持・改善を行う。 ②是正及び予防処置に関する援助・推進を行う。 ③関連部門に対する環境課題の提起・勧告・援助を行う。 ④学校全体の環境に関する教育訓練カリキュラムを教育部門長と共に作成する。 ⑤工科E A 2 1委員会事務局業務を行う。 ⑥環境経営レポートを作成・取りまとめをする。
部 門 長	<p>部門長共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自部門の環境管理に関する全責任と全権限をもつ。 ②工科E A 2 1委員会において環境経営システムに関する課題解決に協力する。 ③自部門の環境管理について代表者への報告・提案を行う。 ④自部門に対して是正及び予防処置について、調査及び是正の指示をする。 <p>(事務部門長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①遵守しなければならない環境関連法規及びその他の環境関連要求事項を整理し、一覧表にまとめ、施設の新増設の届出・諸報告及び関連官庁との折衝を行う。 ②地域社会との環境に関する折衝及び苦情に関する対外折衝を行う。 ③緊急事態(火災・爆発・地震・風水害)発生時の校内外への連絡をする。 ④敷地境界他、キャンパス全体の管理(電気・ガス・水・購入品・廃棄物等)を行う <p>(教育部門長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①環境意識の高い学生を育成する。
グ ル ー プ リ ー ダ ー	<ul style="list-style-type: none"> ①担当職務の環境管理に関する全責任をもつ。 ②目標を達成するための環境経営計画を立案し実施する。 ③是正及び予防処置の立案・実施を行う。 ④自グループの教職員に対し、環境管理に関する教育訓練を行う。 ⑤自職場で管理する環境設備の保全を行う。 ⑥自職場の環境管理について部門長への報告・提案を行う。

主な環境負荷の 実績



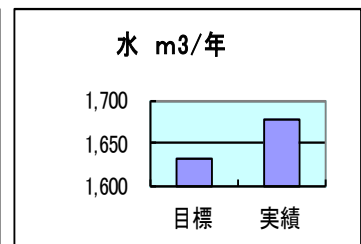
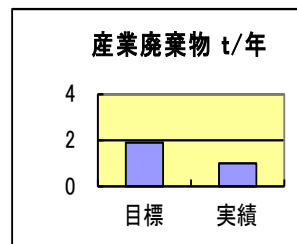
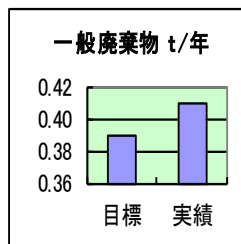
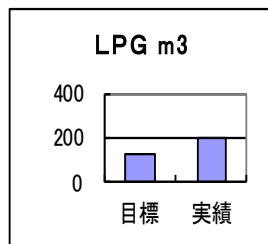
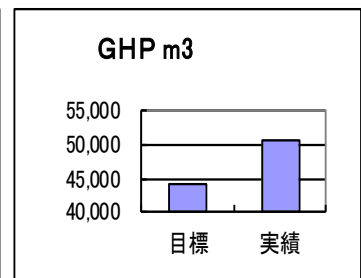
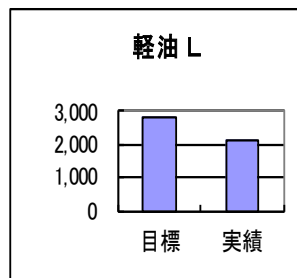
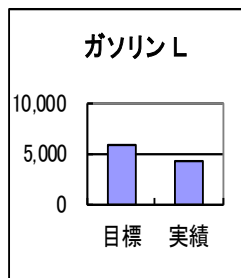
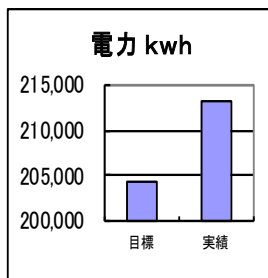
項目	単位	2021年	2022年	2023年	2024年
二酸化炭素排出量 (対象：エネルギー総量)	Kg - CO ₂ ／年	248,982	251,802	239,940	242,419
廃棄物排出量	t／年	8.11	8.08	9.80	7.76
一般廃棄物排出量	t／年	0.38	0.42	0.14	0.40
産業廃棄物排出量	t／年	3.90	2.10	1.96	0.99
総排水量	m ³ ／年	2901.00	2901.00	1648.00	1677.00



- * 過去4年間の推移となります。
- * 2021年とは2021年4月1日～2022年3月31日のことである。
- * 2022年とは2022年4月1日～2023年3月31日のことである。
- * 2023年とは2023年4月1日～2024年3月31日のことである。
- * 2024年とは2024年4月1日～2025年3月31日のことである。

環境経営目標 及びその実績

項目	年度	基準年数量 (2023年)	×比 (2023年)	2024年		判定	2025年
				(目標)	(実績)		(目標)
電力の 二酸化炭素排出量 削減 排出係数：0.547	kWh	215,205.00	0.95	204,444.75	213,036.00	×	202,384.20
	kg-CO ₂ /年	117,717.14	0.99	116,539.97	116,530.69	○	115,365.38
自動車燃料 (ガソリン、軽油 等)の 二酸化炭素排出量 削減	ガソリン L	5,936.17	0.99	5,876.81	4,414.82	○	4,370.67
	軽油 L	2,998.69	0.95	2,848.76	2,108.86	○	2,087.77
	kg-CO ₂ /年	21,508.53	0.99	21,293.44	15,683.86	○	15,527.02
その他 (GHP、LPG)の 二酸化炭素排出量削減	GHP m ³	46,444.00	0.95	44,121.80	50,743.00	×	48,205.85
	LPG kg	131.86	0.99	130.54	199.83	×	189.84
	kg-CO ₂ /年	100,714.62	0.95	95,678.89	110,204.37	×	104,694.15
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂ /年	239,940.29	0.95	227,943.28	242,418.92	×	230,297.97
一般廃棄物の削減	t/年	0.41	0.95	0.39	0.41	×	0.39
産業廃棄物の削減	t/年	1.96	0.99	1.94	0.99	○	0.98
節 水	m ³ /年	1,648.00	0.99	1,631.52	1,677.00	×	1,593.15
化 学 物 質	—	適正管理	1.00	適正管理	適正管理	○	適正管理



* 2024 年の実績は 4 月 1 日～3 月 31 日までの 1 ケ年のものである。

必須項目である環境経営計画の
取り組み結果と評価



取り組み計画	達成状況		単位	上段：結果に対する評価 下段：次年度の取り組み内容
電力の削減 不要照明の消灯 冷房 26～28℃、 暖房 20～22℃に設定 定時退社の日設定 (水曜日)	目標	116,539.97	Kg - CO ₂	CO ₂ 目標は達成できた。
	実績 達成率	116,530.69 100.0	Kg - CO ₂ %	電気料金の高騰が続いているので費用は上昇している。 LED化も進み、施設関係の省電力化は遂行できている。定期的な省エネアナウンスで組織の意識を高めたい。
自動車燃料（ガソリン、軽油）の削減 エコドライブの推進 電気自動車の優先利用	目標	21,293.44	Kg - CO ₂	目標は達成できた。
	実績 達成率	15,683.86 135.7	Kg - CO ₂ %	ガソリンも軽油の使用も減っている。 引き続き、ハイブリッド車、燃料電池自動車を積極的に使用すると共に燃費を気にした運転を心がける。ノーカーデーも推奨したい。
その他の燃料（GHP、LPG）の削減 冷房 26～28℃、 暖房 20～22℃に設定 塗装乾燥ブースの効率的な使用	目標	95,678.89	Kg - CO ₂	目標は達成できなかった。
	実績 達成率	110,204.37 86.8	Kg - CO ₂ %	GHP, LPG ともに使用量が増えた。 GHP の使用量が増えている。熱中症対策もあり、難しいところだが、エアコンの適正使用の強化を図りたい。
一般廃棄物の削減 裏紙の使用 ミスコピーの防止 雑紙の仕分け	目標	0.39	t	目標達成はできなかった。ただ、適切な削減努力はできている。
	実績 達成率	0.41 95.1	t %	積極的な再資源化の方法を模索したい。
産業廃棄物の削減 プラゴミを出さない工夫 過剰包装を断り、梱包物を業者に持ち帰ってもらう	目標	1.94	t	目標は達成できた。産廃教材の分解分別による再資源化の割合が高まったと思われる。
	実績 達成率	0.99 195.9	t %	今後も現状維持ができるようにしていきたい。
節水 無駄水を出さない	目標	1,631.52	m ³	目標は達成できなかったが
	実績 達成率	1,677.00 97.2	m ³ %	不必要な使用は無かったと思われる。 節水に心がけ、毎月々の変化をしっかりと見極め使用量が減らせるよう心がけていきたい。
化学物質 管理簿による適正管理	適正管理	適正管理	—	台帳にて適正管理をしていた。
				次年度も、引き続き適正に管理を行う。

基準年度 : 2023 年

追記（今後の方向性）

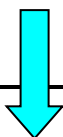
- ※ 昨年に引き続き、燃料費の高騰が問題となっているなか、設備的な省電力化は遂行できている。
 ※ 省エネに関する定期的な呼びかけにより、組織の行動心理に呼びかけ、効果を狙いたい。

自動車整備専門学校としての
環境活動の取り組み計画と評価



教育

取り組み計画	達成状況		単位 基準年度 比	上段：結果に対する評価 下段：次年度の取り組み内容
学生に対する環境教育の実施	目標 実績	100 下のとおり	%	年度を通して計画どおり全教育を実施した テキストを用いた環境教育のみにとどまらず、 常に環境意識の高い学生が輩出するよう標語を 募集するなど日常的な環境教育も心がける。



・令和6年度シラバスに基づく環境教育 ※1時間は90分

科・学年	科目名	時間	実施日	内 容
自動車システム工学科1年	特別学習	3	4/21	地球規模の環境問題 自治体の公共事業が原因の環境問題 企業・家庭生活が原因の環境問題
自動車システム工学科2年	環境経営システム	9	10/16 ～ 12/9	地球規模の環境保全とその必要性 環境保全の現況と必要性、環境保全への取り組み 資源の有効利用 資源の有効利用による社会的貢献 資源有効利用の要件、再利用部品の活用 リビルト部品、中古部品 産業廃棄物処理の影響と対応 産業廃棄物とは、マニフェスト制度とは 使用済自動車の問題とマニフェスト制度 環境への影響、規制の内容、適正処理方法 エアバック、バッテリー、タイヤ、冷却水（LLC） フロン回収・破壊の処理 環境への影響、規制の内容、適正処理方法 カーエアコン用特定フロン、代替フロン P R T R法 整備事業場等の固定施設における環境保全など 本校の環境管理システムについて
自動車システム工学科 一級エンジニアコース3年	総合診断 ・環境・ 安全	15	10/11 ～ 2/10	
自動車システム工学科 一級エンジニアコース4年	環境保全	3	5/24	フロン回収破壊法・自動車リサイクル法 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 リサイクルの現状
自動車整備科 1年	特別学習	3	4/21	地球規模の環境問題 自治体の公共事業が原因の環境問題 企業・家庭生活が原因の環境問題
自動車整備科 2年	環境経営システム	9	10/16～ 12/9	システム工学科2年生と同様
国際オート メカニック科 1年	特別学習	4	4/16～ 4/23	エコアクション21について 地球規模の環境問題
国際オート メカニック科 2年	特別学習	3	4/15	エコアクション21について 地球規模の環境問題
国際オート メカニック科 3年	環境経営システム	10	2/4～2/21	システム工学科2年生と同様

ボディエンジニア専攻科1年	特別学習	3	4/15, 4/19	地球規模の環境問題、工科の環境管理基準
自動車システム工学科 開発エンジニアコース3年	特別学習	3	4/26	地球規模の環境問題、工科の環境管理基準
自動車システム工学科 開発エンジニアコース4年	行事体育	3	4/26	地球規模の環境問題、工科の環境管理基準

・施設・設備に関する環境教育（油水分離槽関係）

※1時間は90分

科・学年	科目名	時間	実施日	内 容
自動車システム工学科1年	ブレーキ実習	1	10/10, 10/17	特定施設とは 油水分離槽の位置 油水分離槽の構造と機能 油水分理槽の点検と清掃 緊急時の対応
自動車システム工学科3年	車両検査実務実習1		4/24, 5/13	
自動車整備科1年	ブレーキ実習		6/3	
国際オートメカニック科2年	エアコン実習		9/4, 11/12	
自動車システム工学科3年 (開発コース)	点検車検実習1		11/8	

・施設・設備に関する環境教育（エア・コンプレッサ関係）

※1時間は90分

科・学年	科目名	時間	実施日	内 容
自動車システム工学科 2年	大型自動車実習	1	7/9, 7/26	特定施設とは エア・コンプレッサの機能 エア・コンプレッサの取扱者 エア・コンプレッサの運転時間 エア・コンプレッサの保守・点検 緊急時の対応
自動車システム工学科 3年	車両検査実務実習 2		9/17, 10/1 10/30	
自動車整備科2年	大型自動車実習		6/6, 6/26	
国際オートメカニック 科2年	アライメント実習		5/21	
国際オートメカニック 科3年	整備総合実習		7/30	
ボディエンジニア専攻 科1年	環境保全		4/19	
自動車システム工学科 開発エンジニアコース 3年	点検車検実習1		1/21	

・施設・設備に関する環境教育（塗装ブース関係）

※1時間は90分

科・学年	科目名	時間	実施日	内 容
ボディエンジニア専攻科1年	環境保全	1	4/19	特定施設とは 塗装ブースの取り扱い 塗装ブースの保守・点検 緊急時の対応

職員

取り組み計画	達成状況		単位 基準年度 比	上段：結果に対する評価 下段：次年度の取り組み内容
通勤車両からの二酸化炭素排出削減 月2回ノーカーデーの実施	基準年度 排出削減量 達成目標	2023 1.1 100	t %	削減量を基準年100%目標としていたが、達成することが出来た。
	(実績) 排出削減量 達成率	2.0 181.8	t %	この取組は排出量削減に大きな効果があると判断できることから今後も継続して実施していく。今後もノーカーデーの呼びかけを行う。

その他の環境活動の 取り組み実績



- ・ 学生自治会による 5 S 4 R 運動の推進
 - 5 S 4 R の唱和実施（毎朝のショート・ホーム・ルーム時）
 - 環境標語 優秀賞「節約が 地球にやさしい いのちづな」（令和 6 年 12 月）
- ・ 教室エアコンの温度管理
 - 夏季 26～28℃、冬季 20～22℃に設定
- ・ 教室エアコンフィルタの定期清掃
 - 7 月、12 月、3 月に実施
- ・ 塗装乾燥ブース、塗装乾燥装置の維持管理
 - フィルタ点検清掃又は交換 7 月、12 月、3 月に実施
- ・ 集塵機の維持管理
 - 6 月、9 月、12 月、3 月に点検実施
- ・ 側溝清掃
 - C 棟 1 階 7 月、12 月、3 月に実施
 - B 棟 2 階 7 月、12 月、2 月に実施
 - B 棟 1 階 毎月実施
- ・ 校用車（乗用車）のエコ化及び電気自動車の積極利用
 - 校用車（乗用車）6 台中、燃料電池自動車
など計 2 台 （以下は校用車の一部です）



燃料電池車：トヨタ ミライ（現行）

燃料電池自動車：トヨタ ミライ（先代）

静岡市内の移動は「燃料電池自動車：トヨタ ミライ」2 台を優先利用

・ ソーラー発電

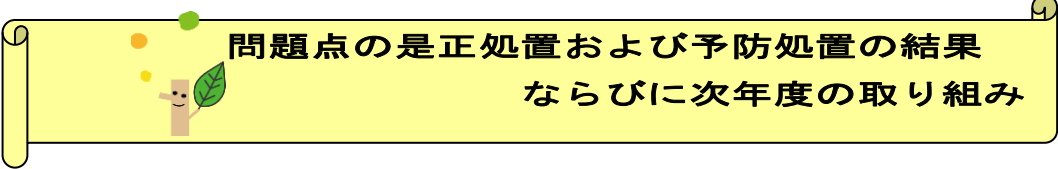
C 棟屋上に最大出力 30kw のソーラーパネルを設置し発電した電気で電気自動車に充電を行う他、本校の使用電力の一部を賄う



最大出力30Kwhのソーラーパネル



電気自動車の充電スタンド



問題点の是正処置および予防処置の結果 ならびに次年度の取り組み



1. 二酸化炭素排出量削減について

- (1) 電力の使用について、電力量は目標を達成できなかったが、昨年度と比べ使用量は減少している。照明設備のLED化を果たしたことで設備面での省電力化のできることは限られてきたが、スイッチのセンサー化の検討や節電についての定期的なアナウンスによって目標を達成していきたい。
- (2) ガソリン、軽油と共に使用量は昨年度と比べ減少し、目標を達成している。特にガソリンは大幅に減少している。軽自動車や電動車の積極的な利用により使用量が抑えられていると考える。引き続き目標を達成できるよう活動を継続していきたい。
- (3) その他のGHPの使用量が昨年に引き続き目標を下回る結果となってしまった。新生活様式が定着し、かつ猛暑が続いたことで使用量を減らすことが困難であったと思われる。熱中症対策は最優先であるが故、これまで以上に適切なエアコン使用の徹底が求められる。

2. 廃棄物の削減について

- (1) 一般廃棄物については目標を達成できなかったが、分別等は適切な実践ができていると考える。学生が持ち込む一般ごみは持ち帰るなどのアナウンスを広め、学校という公の場での排出を削減していきたい。
- (2) 産業廃棄物については目標より削減することができた。鉄くず、アルミの分別を適切におこない、再資源化に向けた行動が徹底されたことが大きいと感じる。今年度においても適切な分別を推進し目標を達成したい。





3. 節水について

目標は達成されなかった。ただし、日常的な節水活動は適切に行っていると思われる。
改めて、日々の手洗い時の節水を求めることで、目標を達成させていきたい。

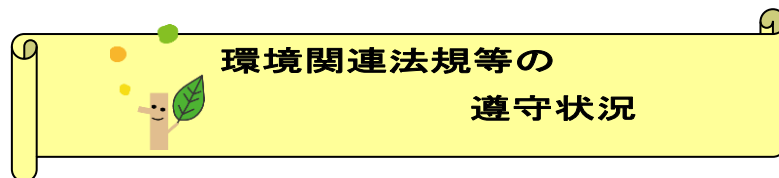
4. 通勤車両からの二酸化炭素排出削減

目標は達成できた。月に 2 回のノーカーデーを個人で実施日を設定し取り組むことにしているが、現状として長距離通勤の職員の実施は難しいと考える。主に静岡市内からの通勤職員に対し積極的な実施をアナウンスし、今後も目標達成を目指したい。

5. 学生に対する環境教育の実施

計画どおり教育を実施することができている。自治会活動を中心として、地域の清掃活動等にも積極的に関わっていききたい。





法的義務を受ける主な環境関連法規は次のとおりである。

分類	適用法令	届出施設	運用(遵守事項)	届出状況 運用状況
水質	水質汚濁防止法、 同施行令、同施行規則	油水分離槽5基	-	○
	下水道法、同施行令	特定施設使用届	-	○
大気	県条例(粉塵)	集塵機3基 塗装乾燥ブース1基	-	○
騒音	騒音規制法	-	第2種(住居)区域の騒音基準の順守	○
	県条例(騒音)	エアコンプレッサ2基 エアコン用冷凍機17基 集塵機3基	-	○
振動		対象外	対象外	-
悪臭	悪臭防止法	-	臭気指数 10	○
土壌汚染		対象外	対象外	-
地盤沈下		対象外	対象外	-
フロン	フロン排出抑制法	-	GHPエアコン点検履歴 保管	○
消防	消防法、市火災予防条例	少量危険物貯蔵所1箇所	-	○
化学物質	PRTR法	-	取扱が少量(1t未満)で 対象外だが管理している	○
廃棄物	廃掃法	-	産業廃棄物管理表に 従い適正処理	○
	自動車リサイクル法	-	使用済み自動車の適 正事業者への引き渡し	○
	建設工事に係る資材の再 資源化等に関する法律、 同施行令	-	解体時に届け出る	○
	プラスチックに係る資源循 環の促進等に関する法律	-	-	○
その他	9都県市のディーゼル車 規制(運行規制)	-	校用車は対策済み車 両	○
	道路運送車両法	認証工場、指定工場	-	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、逸脱はなかった。

また、今年1年間、違反や訴訟もなかった。(令和7年3月現在)

外部から苦情等の 受付状況



今年１年間、外部からの苦情はなかった。（令和７年３月現在）

環境上の緊急事態の 訓練結果



ガス溶接時の火災事故防止およびバッテリー充電時の爆発事故と火災事故の防止を図るため下表の授業の中で訓練を実施した。※（ ）は実施日

科・学年	ガス溶接時訓練	バッテリー充電時訓練
自動車システム工学科１年	2/5, 2/27	7/3, 7/11
自動車システム工学科２年		6/6, 6/25
自動車システム工学科３年 １級エンジニアコース	7/4, 7/10, 7/16	12/16～12/19
自動車システム工学科３年 開発エンジニアコース	7/24	7/3
自動車整備科 １年	1/16, 1/27	5/17, 5/24
自動車整備科 ２年		4/24, 5/17
国際オートメカニック科１年	1/8, 1/23, 2/12, 2/19	6/19, 7/12, 7/18, 7/24
国際オートメカニック科２年		6/26
静岡北高	10/12	

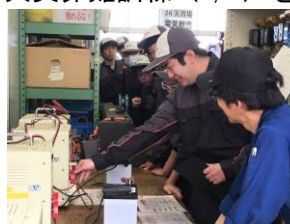
訓練の実施内容

ガス溶接時訓練	バッテリー充電時訓練
ガスボンベ等の保管方法 溶接作業を始める前の片付け 作業中の注意事項 ガスボンベ等の機器の取り扱い方法 引火した場合の対応方法 バケツリレー、消火器の取り扱い方法 避難経路の確認、緊急時の連絡先確認	バッテリー充電方法、注意点 希硫酸の特性、引火性ガスの特性 バケツ、消火器の設置場所確認 希釈又は中和の方法 爆発した場合の対応方法 避難経路の確認、緊急時の連絡先確認 廃バッテリーの保管

※ 緊急時訓練（ガス溶接、バッテリー充電）以外に火災非難訓練（6/3）を実施



ガス溶接時訓練（バケツリレー）



バッテリー充電時訓練

校長による 評価と見直し



令和6年度は、「EA21活動を推進し、エネルギー削減目標を達成」を学校全体の目標とし、二酸化炭素排出量合計前年比5%減を達成するようEA21活動を精力的に推進した。残念ながら二酸化炭素排出量合計としては、前年の実績を下回り目標を達成することができなかった。

まず電力について、電力量(kWh)は前年度比5%削減の目標は達成できなかったが、前年度よりも若干、使用電力量を減らすことができた。それにより、電力削減によるCO₂の削減の面においては年度比1%減の目標に対し目標達成という結果となった。校内の設備の省電力化について、照明のLED化はほぼ完遂している。今後は運用面において更なる効率化を図りたい。また、エネルギー高騰の影響を受け、電力削減量を上回る電気料金の増加が発生しコスト面において課題となっている。

自動車用燃料であるガソリン・軽油について、両燃料とも使用量を減らすことができ、CO₂前年度比1%減の目標を大きく超える良い結果となった。

都市ガス(GHP)及びLPGについては、目標達成できなかった。特にGHPに関しては昨年度より使用量が大幅に上昇した。猛暑化が進む夏季におけるGHPエアコンの使用増と対面授業で窓を解放した状態での使用が常態化したことが本年度も続いているからである。今回の目標を達成できなかった主要原因がGHPの使用にある。R7年度における最重点項目となるが、熱中症対策は最優先であるが故、今まで以上に無駄のないエアコン使用を心がけ、効率の良い使用を推進していく必要がある。

廃棄物の排出量に関して、一般廃棄物は目標未達であったが、実績としては適切な運用がなされていると受け止めている。産業廃棄物は目標を達成し、廃棄量を大幅に減らしている。これは廃教材の徹底した分別がなされ、再資源化につながっていることを示している。

水の使用量については目標を達成できなかった。ただし使用量としては昨年とほぼ同量であることから、不必要な使用は無かったと思われる。また、節水に関しては施設の老朽化による漏水が最も影響が大きいため、毎月の使用量の変化には注意したい。

通勤車両からの二酸化炭素排出削減については、目標達成となった。健康増進のため自転車通勤を推奨するなど、今後もできる範囲の中で目標を達成するよう努めていきたい。

学生に対する環境教育の実施については年度計画通り実施できている。引き続き環境教育を継続し環境意識の高い人材を輩出していきたい。自治会役員によるイベントの企画、運営も期待したい。

今後も環境方針にもある「環境問題を意識した行動のできる学生の育成」という目標達成に向け、教職員が主体となってエコアクション活動を推進し、職員、学生が一体となった活発な活動を強力に推進し、その上位目標であるSDGSの活動へとつなげていきたい。

専門学校 静岡工科自動車大学校
校長 古澤 浩一